

## ■ 概況

7/14～7/20のNYMEX・WTIIは、44ドル半ばから45ドル終わりの狭い範囲で、小刻みに変動する一週間となった。

7月21日は、前日の米国エネルギー情報局(EIA)週報の製品在庫増加、民間情報会社のWTIの受け渡し点であるクッシングの在庫増加の報告等、米国内の石油製品の供給過剰感から反落した。この日から取引の中心限月となった9月限の終値は、前日比1.00ドル安の44.75ドルとなった。

週末22日は、20日のEIAの製品在庫増加報告に加え、イラクの3ヵ月振りの原油輸出増加の報道、午後のペカーヒューズ社の米国掘削リグ数が4週間連続増加(14基)の発表等、供給過剰懸念から続落した。9月限は前日比0.56ドル安の44.19ドルで終了した。

週明け25日は、中国・インド等の景気減速などで、世界的な需給緩和の長期化懸念が広まり、3営業日続落で、4月25日(42.64ドル)以来、3ヵ月振りの安値を付けた。9月限の終値は、前週末比1.06ドル安の43.13ドルとなった。

26日は、引き続き、需給軟化の地合いから、4営業日続落し、前日に続いて3ヵ月振りの安値を更新した。9月限の終値は、前日比0.21ドル安の42.92ドルだった。

27日は、EIA週間統計の米国原油在庫増加の発表をきっかけに、需給緩和の長期化懸念がさらに広まり5営業日続落した。9月限の終値は、前日比1.00ドル安の41.92ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週42.60～42.90ドルの極めて狭い範囲で推移した。21日は43.20ドル、22日は41.90ドル、25日は41.40ドル、26日は40.80ドル、27日は40.60ドルと、下落を続けた。

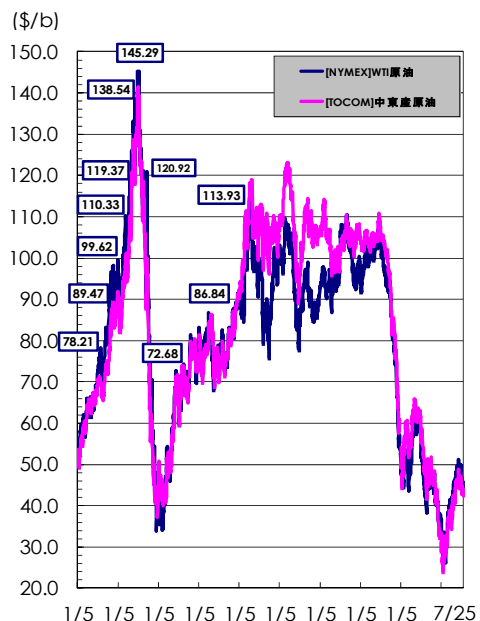
為替は、前週104.15～106.03円の範囲で円安気味に推移した。21日は107.29円、22日は105.71円、25日は106.50円、26日は105.02円、27日は105.12円で推移した。

財務省が25日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、6月下旬の原油輸入平均CIF価格は、中旬比1,307円下げの30,728円/kl。ドル建てでは45.95ドルで前旬比0.57ドル安。為替レートは1ドル/106.32円。同日発表した貿易統計速報(月間ベース)によると、6月の原油輸入平均CIF価格は、前月比3,088円上げの30,918円/kl。ドル建てでは45.33ドルで前月比4.71ドル高。為替レートは1ドル/108.44円。

主要元売会社の8月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きと1.0円の値上げに分かれた。原油は値下がりだが、為替は円安で、原油コストは円安の影響から小幅な値上がりだった。

そのような中で、7月25日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値下がりの122.2円、軽油は0.3円値下がりの102.4円、灯油は0.2円値下がりの63.9円だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。この週の原油コストは小幅な値上がり、元売りの卸価格は1.0円の値上げから1.0円の値下げに分かれた。

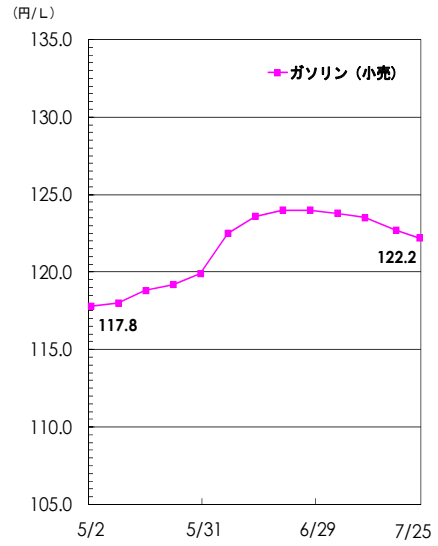
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/17 ~ 7/23	3,585 ▲ 90	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.4 ▲ 2.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/23	15,160 ▲ 230	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/25	42.30 ▼ -1.17	▼ -11.1
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/25	43.13 ▼ -2.11	▼ -4.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月下旬	45.95 ▼ -0.57	▼ -18.15
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,728 ▼ -1,307	▼ -18,847
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.32 ▲ 3.16	▲ 16.63
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/25	107.50 ▼ -0.52	▲ 17.18



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/17 ~ 7/23	1,094 ▲ 29	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,058 ▲ 30	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -56	▼ -	
	在庫	7/23	1,749 ▲ 35	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/19 ~ 7/25	39.8 ▲ 0.7	▼ -17.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/19 ~ 7/25	41.2 ▲ 0.3	▼ -15.8
		(TOCOM/中部)	7/25	40.2 ▼ -0.3	▼ -15.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/25	122.2 ▼ -0.5	▼ -20.3	

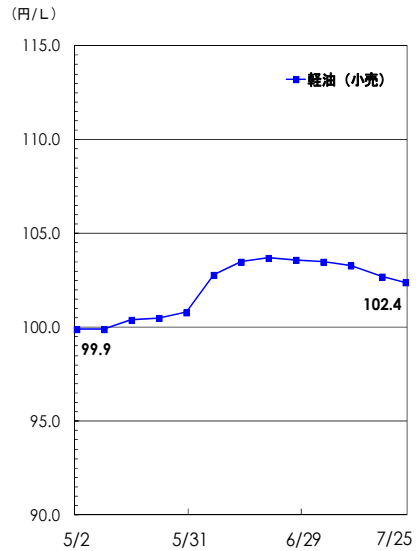
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

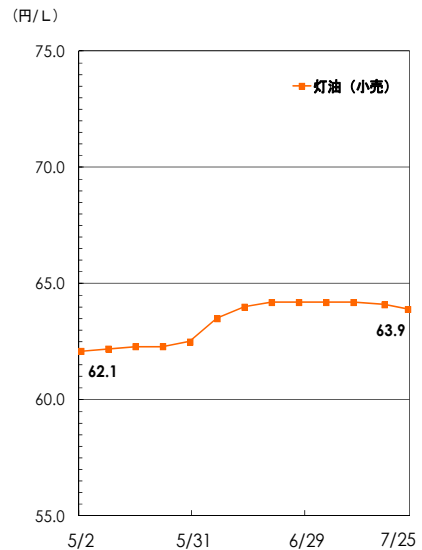
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/17 ~ 7/23	841 ▲ 34	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	595 ▼ -24	▼ -	
	輸出	"	250 ▲ 46	▲ -	
	在庫	7/23	1,501 ▼ -4	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/19 ~ 7/25	38.9 ▼ -0.4	▼ -14.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/19 ~ 7/25	37.8 ▼ -0.7	▼ -14.6
		(TOCOM/中部)	7/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/25	102.4 ▼ -0.3	▼ -18.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/17 ~ 7/23	194 ▲ 52	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	107 ▲ 14	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	7/23	2,093 ▲ 87	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/19 ~ 7/25	37.5 ▼ -0.2	▼ -15.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/19 ~ 7/25	38.0 ▲ 0.1	▼ -14.5
		(TOCOM/中部)	7/25	38.4 ▲ 0.2	▼ -13.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/25	63.9 ▼ -0.2	▼ -21.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

27日のNYMEX市場のWTI原油は、EIAの発表した週間統計で、米国の原油在庫が市場予想に反し170万バレルの増加、夏のドライブシーズンに入ったガソリンも横ばい予想に反し50万バレルの増加と、供給過剰長期化の懸念が一層広がり、5営業日連続で値下がりました。午後発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の利上げ見送りも影響は限定的だった。

取引の中心限月である9月限の終値は、前日比1.00ドル安の1バレル41.92ドル、10月限の終値は、前日比1.07ドル安の1バレル42.61ドルだった。

EIAによると、7月25日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比4.8セント値下がりの1ガロン2.182ドル(61.9円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.3セント値下がりの2.379ドル(67.5円/ℓ)。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油は4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月17日～23日に休止したトッパー能力は、20.8万バレル/日と前週に比べて4.0万バレル減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は358.5万klと、前週に比べ9.0万kl増加。前年に対しては1.4万klの増加。トッパー稼働率は84.4%と前週に対して2.1ポイントの増加、前年に対しては2.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてA重油のみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.7%増、ジェット/4.7%増、灯油/36.6%増、軽油/4.2%増、A重油/4.8%減、C重油/13.1%増。今週のC重油の輸入は4.8万kl(前週比0.9万kl減)。軽油の輸出は25.0万kl(前週比4.6万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。原油価格が値下がりし、為替は円安となる中で、小売価格は4週連続の値下がりとなり、ガソリンの出荷は105.8万kl(対前週2.9%増)と2週連続で前週比で増加、2週振りに前年比で増加となり、4週連続で100万klを超えた。

ジェット11.8万kl(対前週51.4%増)、灯油10.7万kl(対前週14.2%増)、軽油59.5万kl(対前週3.9%減)、A重油18.7

万kl(対前週3.2%減)、C重油31.6万kl(対前週18.8%減)。

(単位:千KL)

	今週 (7/17 ~ 7/23)	前週 (7/10 ~ 7/16)	前週比	
ガソリン	1,058	1,028	▲ 30	(3%)
ジェット燃料	118	78	▲ 40	(51%)
灯油	107	93	▲ 14	(15%)
軽油	595	619	▼ -24	(-4%)
A重油	187	193	▼ -6	(-3%)
C重油	316	388	▼ -72	(-19%)
合計	2,381	2,399	▼ -18	(-1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月23日時点の在庫はガソリン、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは174.9万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては12.2万kl多い。

灯油は209.3万kl、前週差8.7万kl増。前年に対しては27.6万kl多い。

軽油は150.1万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては26.4万kl少ない。

A重油は74.7万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は186.9万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては12.4万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/23)	前週 (7/16)	前週比	
ガソリン	1,749	1,714	▲ 35	(2%)
ジェット燃料	1,043	1,167	▼ -124	(-11%)
灯油	2,093	2,006	▲ 87	(4%)
軽油	1,501	1,505	▼ -4	(-0%)
A重油	747	759	▼ -12	(-2%)
C重油	1,869	1,873	▼ -4	(-0%)
合計	9,002	9,024	▼ -22	(-0.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月19日から7月25日までの原油コストは、原油価格は値下がりだったが、為替レートは円安でこれを相殺したことから、小幅な値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン93~94円台、軽油38~39円台、灯油37円台でやや堅調に推移した。海上スポット価格は、ガソリン96~97円台、軽油42~43円台、灯油36~37円台で灯油を除き1.0円程度値上がりをした。先物価格はガソリン94~95円台、軽油37~38円台、灯油36~39円台でほぼ横ばいだった。元売の卸価格は据え置きから1.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは28日、30日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種とも1.0円値上げする旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

円安による原油コストの上昇と元売の卸価格値上げを受け、製品スポット市況は、一部を除いて堅調となった。週間のガソリン販売量は、4週連続で100万klを超えた。

8月第1週(7月28日~8月3日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月19日~7月25日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は0.2円、軽油は0.4円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円、軽油は0.1円、灯油は0.3円の値上がり、先物価格は、ガソリンが0.3円、灯油が0.1円の値上がり、軽油が0.7円の値下がりだった。スポット製品価格は、円安の進行の影響を受け一部を除いて堅調に推移した。

8月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.0円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (7/19 ~ 7/25)	前週 (7/12 ~ 7/15)	前週比
スポット価格	レギュラー	39.8	39.1	▲ 0.7
	灯油	37.5	37.7	▼ -0.2
	軽油	38.9	39.3	▼ -0.4
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (7/19 ~ 7/25)	前週 (7/12 ~ 7/15)	前週比
先物価格	レギュラー	41.2	40.9	▲ 0.3
	灯油	38.0	37.9	▲ 0.1
	軽油	37.8	38.5	▼ -0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/19~7/25実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.5
灯油	▼ -0.2	▲ 0.1	➡ 0.0
軽油	▼ -0.4	▼ -0.7	▼ -0.5
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

7月25日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの122.2円、軽油は0.3円値下がりの102.4円、灯油は0.2円値下がりの63.9円だった。ガソリンは4週連続の値下がり、軽油は5週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは6府県、横ばいは2県、値下がり39都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、秋田県(前週比1.4円安)の116.6円、次が埼玉県(前週比0.8円安)の117.1円だった。最高値は長崎県(同1.0円高)の132.7円だった。都道府県別で最も値上

がりしたのは前週比1.0円高の長崎県(132.7円)、最も値下がりしたのは前週比1.5円安の鳥取県(118.7円)だった。

原油コストは小幅な値上がり、卸価格は各社対応が分かれたが、4週連続で小売価格は値下がりした。原油価格の値下がり円安が上回る形で、原油コストは小幅に値上がりしており、一部の元売りは卸価格を引き上げた。次週の小売価格は、小幅な値上がりが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			
		今週 (7/25)	前週 (7/19)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	122.2	122.7	▼ -0.5	08/8/4 185.1
	灯油	63.9	64.1	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	102.4	102.7	▼ -0.3	08/8/4 167.4

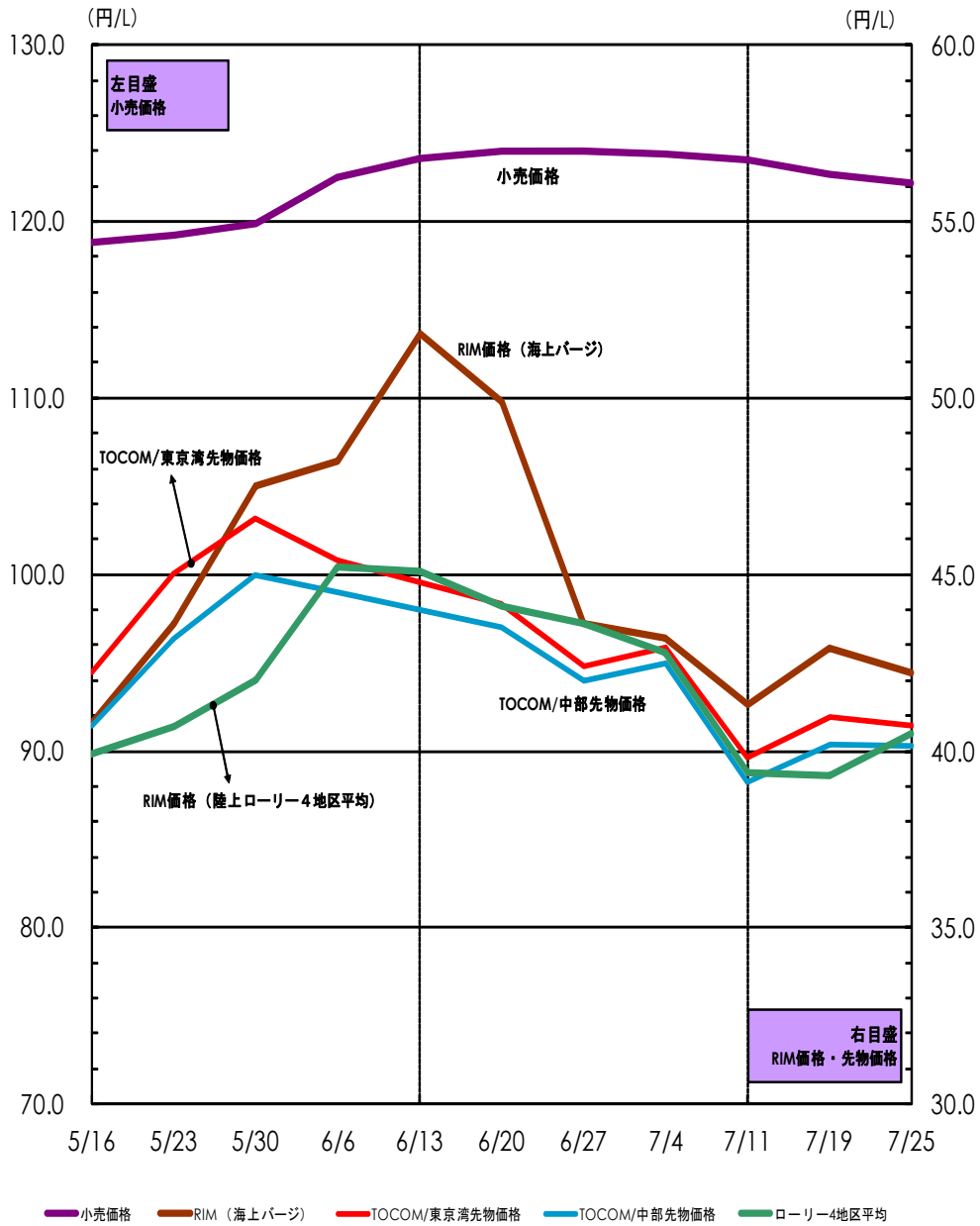
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/5/16 ~ 2016/7/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第18号)の公表は、8/5(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。